

題字・山下太郎名誉教授

静岡大学文理・人文学部同窓会

発行人 ■藤木紀男

編集人 ■岳委員会

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 静岡大学共通教育A棟

Tel.054-238-5148 Fax.054-238-5148

# 静岡大学法科大学院にご支援を頂いている皆様へ —今年度司法試験の結果と分析、今後の対応について

平成20年10月6日  
静岡大学法科大学院長 大江泰一郎

謹啓 静岡大学法科大学院をご支援下さっている皆様には、ますますご清栄のことと拝察いたします。平素よりたいへんお世話になり、あらためて厚く御礼申し上げます。

さて、各種報道よりご案内の通り、この9月11日には法務省から今年度の司法試験最終合格者の発表が行われ、本法科大学院の修了生の合格者は残念ながら2名に止まりました。皆様方におかれましてもいろいろとご心配をおかけしていることと存じます。法科大学院といたしましてはこの結果を分析し、来年度試験に向けて対策を協議し、9月25日には文部科学省にも赴いて、状況の説明にあたってきたところです。このたびは、支援者の皆様にご問題について状況の概要を取り急ぎご説明するとともに、私どものあらたな意気込みをお伝えしたいと存じまして、お便りを差し上げる次第です。

全体（74法科大学院）の合格率平均は33%、中位の法科大学院（合格者数で37位・岡山大学法科大学院ほか）の合格率は13.1～31.4%でした。後発校（平成17年度設置の法科大学院）は、筑波大（夜間コースのみ）を例外として、いずれも合格者2名の水準に止まっており、合格者が全く無かった法科大学院（全体で3校）のうち2校もここに集中しています。こうした結果から見れば、本校の結果（合格率11.8%）は最悪というわけではありません。しかし、合格者数を2～5名と読んでいた本校の予測から見れば、合格者数2名はやはりたいへん厳しい結果と言わざるをえません。

とはいえ、校内の期末試験総合成績（卒業成績）と司法試験の最終結果との間には高い相関があり、本校の法曹養成教育が一定の効果を発揮していることも、私どもの分析の結果から分かっております。さらに最終合格者と同じ校内学業成績水準あるいは短答式試験成績が最終合格者に近い水準に達していながら最終結果は不合格であった卒業生が複数おり（ここには文字通り紙一重の差で惜しくも最終合格を逸した卒業生も含まれます）、加えてこれとほぼ同水準の卒業生で今年度

未受験に終わった者もおります。これらの点を見るにつけ、私ども法科大学院教員としては、あと一歩の力不足が今さらながら強く感じられてなりません。以上のような修了生の力の到達水準の状況は、来年3月に修了予定の現3年生についてもほぼ当てはまるように思われます（この学年からはすでに2名の旧司法試験合格者が出て退学しております）。

このように見えますと、短答式試験のみならず論文式試験で発揮できる力（「論文力」）を育てること、同時に、まずは短答式試験で問われる力（「基礎力」）をもつ院生・修了生の層をさらに厚くする、といった教育手法の工夫を強めることにより、来年度については、いまひとつ上の結果に結びつける可能性が現実存在すると考えられます。

私ども静岡大学法科大学院の教員スタッフは、これまで法科大学院の理念に忠実にいわば正攻法の教育に全力を傾注してまいりました（平成19年度に独立行政法人「大学評価・学位授与機構」の予備評価実施により一定の評価をすでに得ており、平成21年度には本評価が実施されます）。こうした理念に忠実な教育姿勢との関係では、文科省や法科大学院認証評価機関が法科大学院の「予備校化」を強く戒めてきた事情もあり、私どもの場合、司法試験を強く意識した教育手法についてはこれまでやや不十分なところがあったように思われます。10月から始まる20年度後学期からは、こうした教育手法の質的に新たな工夫を軸とし、「FD強化委員会」（本年度7月教授会ですでに設置。田中克志教授・委員長）を先頭に、「論文力」プラス「基礎力」増強の方向で、個人別学生指導ファイルにもとづく個別指導の徹底、日常とくに「演習系」授業における実践力の養成強化の教育手法の強化などを進めてまいる所存です。

まだまだ至らぬ点が少なからずあろうと存じます。今後とも皆様のご指導とご鞭撻、またご支援を、よろしくお願い申し上げます。

謹白

## 静岡大学法科大学院から新司法試験に合格して

静岡大学法科大学院・第1期（2008年）修了生 古澤一樹

私は、法科大学院に入学する以前に、旧司法試験の受験経験があります。学部を卒業後に数回受験しました。そこでの受験勉強は、いわゆる受験予備校の指導の下で行っていました。法科大学院および新司法試験という制度は、アンチ予備校を1つのテーゼとする側面は否定できないところですが、私は、予備校指導の下での受験勉強において、現在の制度が否定したいと思われる勉強方法の最たるものを採用していたと思います。その方法内容は、あえて単純に表現すれば、ひたすら暗記するというものだったと思います。例えば、判例については、ただ規範部分を覚えて記述することさえできればよしとし、事案や論理展開は学ぼうとすることさえしなかったと思います。今から思い起こせば、法律学を学んでいるとはいえないものだと思います。

このような方法でしたので、本質的なことは何ひとつ掴めず、私は力量不足を覚ったつもりで法曹への道をいったん諦めました。その後、やはり諦めきれず法科大学院へ入学したわけですが、入学当時に念頭に置いていた勉強方法は、前述のような勉強方法でした。しかし、いざ法科大学院の授業を受けてみると、180度異なるものでした。法科大学院での学習および新司法試験のための勉強においても、やはり判例学習が中心的なものとなりますが、そこでは、前述のような方法とは異なり、事案や論理展開の学習が中心的で、問題の本質を探ることに力が注がれていたと思います。また、授業内容だけでなく学習環境も驚くべきものでした。豊富な文献を揃えた資料室や、判例・論文などを素早く検索できるデータベース、24時間365日

利用可能な自習室、そして何より、高い意識付けの下に集まった学生たち。私は、これらのインフラを活用することで自ら本質を探る学習を行うことができましたし、学生の仲間や先生方と議論を交わすことでより深い理解を獲得できたと思います。結果的に、これらのすべてが、新司法試験での合格というよい結果に作用したと断言できます。

私は、受験予備校が、ほんとうに前述のような受験指導を行っていたのかについては測りかねます。むしろ、私が独善に過ぎたのではないかと思います。しかし、重要なのは、私のように誤った方向で学習している者を正しく導ける指導、および環境なのではないかと思います。私が旧司法試験を受験していた当時、勉強方法の主流は、間違いなく私が行っていた前述のような方法でした。受験生の大部分が同じような方法でしたので、文献を参照したり判例・論文を検索したり、実質的な議論をしようとする受験生が周囲にいませんでした。当然、そのような学習によって本質を探ろうとする受験生もいませんでした。

以上のように、私にとっては、まず何よりも、正しい方向を向いて組織・整備された人的・物的な環境こそが、私自身の意識を変化させ、よい結果に導いてくれたものと感じています。私にとって静岡大学法科大学院はそのような場所でした。私は、現在の制度の是非を評価する立場にありませんが、静岡大学法科大学院を含む法科大学院の環境が、従来の誤った勉強方法を180度転換させ、法曹としての資質を磨く場として今後より充実していくことを願います。

### 〈住所訂正のお願い〉

昨今の市町村合併の影響で、転居しなくても住所表記が変わるケースが増えています。順次訂正に努めておりますが、訂正漏れがありましたら最終面の「変更データ個人票」でお知らせください。

静岡大学文理・人文学部同窓会事務局

### 「お知らせ」

同窓会のホームページを開設しました。ネットの時代、同窓会の情報をタイムリーに公開し、会員相互の交流をさらに深めたいと思います。将来的には、機関紙「岳」の発行部数を減らしHPに移行してゆく方針です。現在静岡大学のHPがあり、各学部同窓会の中では浜松工業会、理学部が開設しています。教育学部は独自に開いていますが、新しく文理・人文学部同窓会が大学のHPに加わることになりました。大学のHPから開くことも出来ますし、次のアドレスから開くことも出来ます。同窓会の皆様、互いに情報を共有すると共に、大いに、利活用下さいますようお願い申し上げます。

文理・人文学部同窓会のアドレスは次の通り

**e-gaku.org**

### 目次

静岡大学法科大学院にご支援を頂いている皆様へ 静岡大学法科大学院長 大江 泰一郎……………1	
静岡大学法科大学院から新司法試験に合格して 静岡大学法科大学院・第1期修了生 古澤 一樹……………1	
静岡大学文学部・理学部数学教室 恩師を迎えて同窓会総会開催 文理7数 深見 謙次……………2	
「東京支部総会」09年6月開催 多数の参加を 文理7法 福岡 厚……………2	
静岡大学倶楽部 発会式行われる！！ 人文3法 三島 文夫……………2	
関西支部 第15回関西支部総会 文理8法 岩本 平……………2	
穆察会に41名参加、旧制静岡高合同会へ発展期す 記念誌「わが青春のHEIMAT穆察」も発刊 文理12経 吉川 駿……………3	
第18回静岡大学悟察会総会 静岡城北公園とマイホテル竜宮で開催 文理7数 深見 謙次……………3	
文理9回卒「古希の集い」 文理9経 小林 五郎……………4	
文理S27同期会を焼津で開催 文理4経 芹沢 欽一……………4	
平成20年度東海地区「魁察の会」開催 文理12数 和田 孝宣……………5	
田母神氏とミナイさん 人文1外史 山口 茂……………5	
「供養とスケッチの四国八十八ヶ所寺遍路旅」 文理9経 小林 五郎……………5	
大学だより……………7	
可能性は無量大！ 社会学科4年 宮本 将史……………7	
就職活動を終えて 経済学科4年 棚橋 圭太……………7	
価値観革命 言語文化独文3年 福山 大介……………7	
学生生活について『解なし』 法学科3年 青野 洋……………7	
書籍紹介……………8	

# 静岡大学文理学部・理学部数学教室 恩師を迎えて同窓会総会開催

文理7数 深見謙次



## 同期との再会

静岡大学理学部数学教室の佐藤宏樹先生が平成19年3月、同じく松田稔先生が今年3月にそれぞれ退官されたのを機会に、両先生と学科長の千葉慶子先生を来賓でお招きして、退官祝賀会に併せ静岡大学文理学部・理学部数学教室同窓会(以下、「本会」)の総会が5月24日(土)、静岡市葵区のマイホテル竜宮で開催された。

本会は大岩キャンパスでの文理学部時代に、生田利治先生が昭和33年卒業の初回から、卒業生名簿を整備されていた。そして昭和40年の学部改編による大谷キャンパスへの移転で、同先生は理学部数学教室に在籍されて、文理学部・理学部数学教室卒業生名簿として継承された。それを基盤にして昭和57年に本会を発足させた。その後も同先生には本会への心強いご支援をいただき、続く近藤亮司先生にも親身なご指導のもと、川合一蔵先生に始まる先生方の退官に際し併せて、退官祝賀会と本会を同時開催してきている。

住所把握された会員は文理学部約70名、理学部・研究科約1,100名。当日出席者48名。退官された先生への記念品代として、欠席者にも意志の疎通と高揚の為に寄付を呼びかけたところ、135名が協力された。この場を借りて報告させていただくとともに、賛同された方に敬意と謝意を表したい。

さて、総会は水口好美氏(文理16回)の司会で進行され、会長(深見謙次文理7回)の開会挨拶では、諸先生ご臨席への謝意と退官先生に祝意を表し、東京～新潟～豊橋～神戸から出席の同窓再会の喜びを共有するとともに、本会の来歴を

回顧して数学教室との良好な関係持続を強調した。

次く総会議事である役員改選に当たり、次のように選任されて紹介と挨拶があった。理事(卒業年次若年未定)及び監事は、前期役員会案を会長職権で諮って委嘱した。役員名簿・賛助者一覧表・会則等は会場で配布された。

会長	深見謙次	昭和34年卒	再任
副会長	澤入忠志	昭和36年卒	再任
副会長	水口好美	昭和43年卒	新任
副会長	清水幸洋	昭和46年卒	新任
副会長	山崎保寿	昭和52年卒	新任
副会長	鈴木富喜	昭和54年卒	再任

## 謝恩の会

壇上に立たれた退官の佐藤先生と松田先生の経歴や専攻などを、数学教室学科長の千葉先生から紹介していただき、本会から記念品と花束を贈呈して感謝の意を表した。

両先生は満面笑みを浮かべながら、それぞれに大谷キャンパスを懐かしむように思い出と抱負を話された。

続いて同窓生年長の遠藤幹彦氏(文理7回)から乾杯の発声があり、舌鼓と歓談で佳境に入った。この間に司会者は、両先生のゼミ受講生を見出してきて、次々と壇上へ導き、ゼミ生の恩師との思い出話に華が幾重にも咲いて、名残惜しみつつ閉会した。

## 今後の課題

本会の今後に取り組むべき課題と、その対処の方法を提起して、役員会で協議を進める上での指針としたい。

課 題	副会長担当職名
副会長の担当職総轄	総 括
理事の選出と連携強化	理 事
名簿コンピュータ化整備	名 簿
活動費源泉と収支バランス	財 政
議事録、案内文、広報文	広 報
重要・緊急の事項	特 命

(文理学部・理学部数学教室同窓会長)

# 「東京支部総会」09年6月開催 多数の参加を

東京支部は、関東甲信越から東北地区までを含み、会員数は2,400余人、毎年6月第2金曜日に東京で総会及び懇親会を行っています。次回第28回総会は下記のとおり開催しますので、多数の方々の参加を期待しています。新旧会員お互いに情報を交換し、交流を深め、新たな展望を語り合しましょう。

記  
日 時 2009年6月12日(金)  
午後6時  
場 所 アルカディア市ヶ谷(私学会館)  
東京都千代田区九段北4-22-25  
Tel 03-3261-9921  
会 費 7,000円

東京支部長 福岡 厚(文理7法)

# 静岡大学倶楽部 発会式行われる!!

平成20年11月15日 於 ホテルシティオ静岡  
人文3法 三島文夫

静岡市を中心とした地域に居住し、あるいは、職場を持っている静岡大学のOBや現役の学生達との、学部・世代を越えた顔の見える同窓生ネットワークを作ろうと、静岡市葵区伝馬町のホテルシティオ静岡で、11月15日午後6時から、静岡大学倶楽部の発会式が行われました。文理学部、人文学部、農学部、教育学部、理学部、情報学部の卒業生、現役の学生約60人が出席。今後は、様々なイベント、勉強会、懇親会を行っていくこと。会員や会員の職場の紹介記事を静岡大学倶楽部のホームページに掲載し、同窓生の社会貢献や活躍が互いに見えるようにしていくこと。特に、来年2009年5月には、静岡大学創立60

周年を迎えることになり、記念の卒業生懇親パーティーを盛大に開きたいことなどが決められました。

静岡大学倶楽部では、多くのOBや現役の学生の方々に、同倶楽部への加入を呼びかけています。

役員は、次のとおり。

名誉会長 辻 昭(昭和29年 文理卒、静岡英和女学院理事長)

名誉顧問 佐藤博明(元静岡大学学長)

会 長 露無慎二(静岡大学副学長)

事務局長 中田紘二(昭和43年 文理卒、(株)ユニックス代表取締役)



静岡大学倶楽部への加入手続きなどのお問い合わせは、事務局へ

E-mail club.shizudai@gmail.com

FAX 054-207-7896

静岡大学倶楽部ホームページ

http://shizudaiclub.blog44.fc2.com/



# 関西支部 第15回関西支部総会

文理8法 岩本 平

隔年毎に開催しております文理・人文学部同窓会関西支部総会が、本年9月13日、第15回目として下記要領で開催されましたので、その概要をご報告いたします。

浜松工業会・朝比奈宗太顧問  
大阪・奈良支部・望月正晴支部長  
静岡県大阪事務所・喜多晋所長  
太田敏生

会員出席者 計26名  
(文理7名、人文19名)

## 記

### 〔I〕総会

開催日時 平成20年9月13日(土)  
13:00~

場 所 ホテルウィーナ大阪  
(大阪市天王寺区上本町)

来 賓 大学・浅利一郎人文学部長  
同窓会本部・藤木紀男会長  
東京支部・福岡厚支部長  
浜松支部・阿部治彦支部長  
東海支部・杉浦雅樹支部長  
関西静校会・早川澄  
柳瀬繁次郎

### 〔II〕講演会

「弁護士ゼロ地域に挑む～責任感とやりがいがある仕事」

弁護士 藪下貴幸氏(人文27回法)  
人文27回法出身の藪下弁護士は、04年に司法試験に合格、本年6月より近畿唯一の裁判所があるのに弁護士が一人もいない大津地裁長浜支部管内で事務所を立ち上げられ、新聞紙上でも大きく紹介された。又、同級生の中林治一郎氏と対談形式で話を進め、笑いも交えながらの講演会でした。

〔Ⅲ〕総評

本年は、総会前より人文OBによる若手OB会員の参加を呼びかけてもらい、これまでになく人文若手OBが多数参加していただきました。(文理7名、人文19名 計26名)又、遠方の島根県より参加いただき、女性2名の参加もいただき、我々同窓会幹部も非常に大きな力を得たと慶んでおります。次回総会には、更に参加者増を図っていきたくと思っています。

「法の助け、地方にこそ」

近畿地方で唯一、裁判があるのに弁護士が一人もいない大津地裁支部(仮称)が実現した。今年度、若手OBの代表弁護士(仮称)が法律事務所へ、司法士時代の経験をいかして、若手OBの法律事務所を立ち上げたいと、若手OBの代表弁護士(仮称)が、地裁支部の立ち上げを、大津地裁支部(仮称)の代表弁護士(仮称)に依頼した。大津地裁支部(仮称)の代表弁護士(仮称)は、大津地裁支部(仮称)の代表弁護士(仮称)に依頼した。大津地裁支部(仮称)の代表弁護士(仮称)は、大津地裁支部(仮称)の代表弁護士(仮称)に依頼した。



近畿地方で唯一、裁判があるのに弁護士が一人もいない大津地裁支部(仮称)が実現した。今年度、若手OBの代表弁護士(仮称)が法律事務所へ、司法士時代の経験をいかして、若手OBの法律事務所を立ち上げたいと、若手OBの代表弁護士(仮称)が、地裁支部の立ち上げを、大津地裁支部(仮称)の代表弁護士(仮称)に依頼した。

第18回静岡大学悟寮会総会  
静岡城北公園とマイホテル竜宮で開催  
文理7数 深見謙次



青春との再会

仰秀寮歌碑の傍に白い彼岸花が咲く静岡城北公園に9月27日(土)の午前、第18回静岡大学悟寮会第一部として参集した。静岡市葵区大岩本町の「城北公園」は、静岡大学文学部が学部の改組で大谷キャンパスに移転完了(昭和45年)後、跡地が同51年に国より静岡市へ移管され、公園として整備して同57年に供与された。公園の日本庭園の池畔に、文学部構内で君臨した仰秀寮の跡地としての証しを、本部同窓会と旧制静岡高校同窓会の協働によって、赤御影石3トンの仰秀寮歌碑が建立され、平成4年(1992)に除幕した歴史に残る名跡である。石碑建立の発端からの故事来歴を悟寮会事務局(深見謙次 文理7数)が説明した後、仰秀寮代表寮歌「地のさざめごと」を橋本益男氏(文理9数)のタクトで高唱して、感慨を覚えた。半世紀前の青春時代。人生の左右に支配した礎を形成した刻であり、所である。歌碑の前に佇む時、その後の道程における語り尽くせぬ苦楽万感が脳裡に去来する。原点に回帰した参加者冥利である。

会長(竹本章氏 文理5法)開会挨拶の後に事務局報告があって、杉山文雄氏(文理2法)による乾杯発声で開宴した。飲食も程に、悟寮会恒例好評の「3分間」スピーチリレー号砲が響いた。ブレメ(医学部進学課程)出身の医師は最新の医療事情について、患者の医者盲信や健康自立性の喪失を、自らの闘病体験をもとに強調された。利害なく本音の主張ができ、傾聴に値し心洗われる思いは、同窓会だからこそその効用である。職場での行き詰まりの結末は、同窓と交流の無さのケースが多いと、社会心理学者は指摘する。悟寮会常連の一人は、縦化された社会が多い中で、悟寮会が同期同輩の誼みを越えた先輩～後輩間の闊達さを力説した。常連なるが故の発言である。一般論としては、同期にのみ安住してその域を出ない輩への指針となろう。その一方で、悟寮会が隔年開催の第18回において、現代に生きるの気概なく、いつまでもノスタルジーを繰り返す様は如何なものだろうか?かくして3分間の持分は、6分間の雄弁で30分余延長して終了した。副会長(杉山卓之輔氏 文理5化)の軽妙な閉会挨拶で、悟寮会出席は5年延命、と鼓舞された。仰秀寮代表寮歌1番を高唱して、名残り惜しみつつ散会した。(静岡大学悟寮会事務局長)

高齢後期に生きる

第2部は正午を過ぎて常宿で、ホテル直行組と合流して開催された。法曹界をはじめ各界の名士を輩出した悟寮会である。しかし、第一部の御題目に加えて、昼間の時間帯で広域参加の容易化を意図したのに、空しくも効を奏することなく、7人に1人が体調不良の事由等々で、欠席が多数となった。



穆寮会に41名参加、旧制静高合同会へ発展期す  
記念誌「わが青春のHEIMAT穆寮」も発刊  
文理12経 吉川 駿



新制静岡大学文学部は大岩の地で旧制静岡高校の校舎・寮を引き継いで昭和24年スタートした。5つの棟からなった仰秀寮(5寮)の1棟が穆寮、20室に40人の貧乏学生が生活していた。この仰秀寮も文学部校舎もなくなって40年の月日が経過した。最終入寮者もう還暦を迎えている。新制大学になって20年間に穆寮に在籍した学生総数は2百余名である。その穆寮で同じ釜の飯を食べた仲間は1～2年毎に「穆寮会」を開催し旧交を温め、新しい情報を交換しあい、これからの社会と人生を熱く語り合う時を持っている。今年、東京地区在住者が幹事になって11月15～16日東京・南青山会館で穆寮会を開催した。北は秋田から南は広島まで41名の「兄弟」達が参加した。また、今回から旧制静高の穆寮大先輩、草野芳正さん、深沢昭三さんが来賓として参加された。紅一点田邊郁子さんが花を添えてくれたのはいうまでもない。参加者は、25年入寮=1人、27年=3人、28年=1人、30年=1人、32年=2人、33年=3人、34年=1人、35年=2人、36年=5人、37年=4人、38年=3人、39年=5人、40年=1人、41年=4人だった。初めて参加した仲間も何人かいた。「これまで過去は振り返ることはしないと参加を見合わせていた」人もいたが、飲み食い交流が盛り上がるにつれ、「過去を語り合い、現在を見、議論を戦わせる中に前向きの元気が生まれ、世代を越えた交流の大切さを知った」と今後の参加を約束する人も現れるほど大いに盛り上がった。

旧制静高の草野・深沢両氏は、「非常に感激した」と今後、旧制静高・新制静大合わせた穆寮会を開くことが提案され、全員でこの次からは合同で確認された。最後は、恒例の肩を組んでの寮歌斉唱。1次会終了後は2次会に三十余人が参加、ここでも「ゆたけき胸の」の作詞者井上長さんの江田島談義、アルトハイデルベルク訪問とネッカ川橋上での高吟話などで夜が更けるのも忘れて語り歌った。次回は、関西在住組が幹事になって開催される。また、廃寮40年にあたり一つの記念記録を残そうと記念誌「わが青春のHEIMAT穆寮」が発刊された。昭和23年入寮の武藤雄治さんから、諸和43年の田中純夫さんまで47名の投稿が寄せられた。その時代時代の世相も描かれ素晴らしい記録となった。静大図書館と文理・人文同窓会に寄贈することとした。残部僅少。希望者は042-337-8141長谷川君まで。



# 文理9回卒「古希の集い」

平成20年10月26日 焼津グランドホテル  
文理9経 小林五郎



晩唐の詩人許渾は、青春の頃を思い出してその頃の歌を口ずさむが、鏡に映った自分の姿に思わず鏡を覆い、「昨日は少年、今は白頭」と嘆いた。

続々と集まってくる友、友。髪の毛はあくまでも薄くしかも真っ白だ。大半は誰だかわからなくて、「失礼ですがどなたでしたっけ」が挨拶代わりになる。

1961年に卒業して以来47年間、日本の高度成長を支えてきた企業戦士、精悍だった顔もすっかり白髪になり好々爺になって静岡の地に帰って来た。長年ご苦労様でした！

卒業生は135名だが、いろいろあって今回集まったのは33名。亡くなった友、連絡つかない人、返事のない友が全体の半数近くで、半世紀という時の流れを実感してしまう。

6時から始めた宴会では、一人一人から近況報告があり、酒を酌み交わしながら友の生き方に興味を持って耳を傾ける。大企業あり、自営業ありの別々の人生を歩いてきたが、今は大半の人が仕事から解放され、学生時代と同じ自由な生活を楽しんでいる様子がうかがえても有意義なひと時だった。

翌日は懐かしの大岩校舎跡地を散策する。今は城北公園になり市民の憩いの場になっていて昔の面影はないが、唯一講堂の東側にあったヒマラヤスギだけが巨大な姿でわれわれを迎えてくれた。仰秀寮跡地は今では池の底に沈んでいて思い出すことすら出来ないが、池のほとりにはひっそりと仰秀寮の歌碑が建っている。平成4年に旧制静岡高校の70周年記念事業として静大同窓会共催で建てたものである。石碑の前で仰秀寮代表寮歌「地のさざめごと」を全員で斉唱して昔を偲ぶ。

歩いて浅間神社に行き参拝してから、有志で賤機山に登る。半世紀ぶりに見る静岡市街は高層ビルが林立してすっかり変わっていたが、秋の天空に昔ながらの雄姿で屹立する霊峰富士は、半世紀という時を越えて温かく迎えてくれた。富士山はいいな！だれからともなく言葉がもれた。今回かざりと思って開いた会だったが、続けて欲しいという声が多く、次は2年後に東京で会おうと約束して帰路についた。

## 近況報告

### 文理9回卒 青島甫

毎日、朝昼晩と室内犬パピヨン3匹と散歩に出るのが仕事です。おかげで腰痛に悩まされることがなくなりました。

### 文理9回卒 植松高豊

3年前、仕事のけりをつけることも含め、富士山の麓、朝霧高原の猪之頭に居を定めました。最近の生活は、①家の整理と農作業 ②猪之頭区という村役のお手伝い ③主としてトヨタウエイを核としたカルマン社による改善活動の支援。以上を3分の1ずつあてている。

静大文理での4年間は人生における貴重な場であり、学びの場であり、全国区での人との出会いの場でした。

### 文理9回卒 甲田一雄

学生時代は演劇をやっていましたが、古希ともなれば舞台に立つエネルギーを持っていません。そこで2年前より仲間を募って朗読サークルをつくりました。10名（女性8名、男性2名）の少数集団ですが、月1回、品を落とさないという条件で発表、作品は自由です。私の発声訓練は朝法華経をしっかり読み上げることです。パートナーとの共通の趣味である水泳も週3回、1日千メートルを目標に楽しんでいます。人生のゴールまでうまくソフトランディングできるかどうか。

### 文理9回卒 日下部隆久

古希の集いに参加し、同時代の環境（戦時、戦後）体験を70年共にし、4年間という青春時代は人生の華の時であり、純真な夢に燃えた当時の貴重な経験を回顧し、人生の貴く何物にも換えがたい時をすごし、積年の垢を一気に落とした思いです。大学の意味を考え直すよい機会になりました。

### 文理9回卒 佐口 功

平成18年3月に、大学教員を退職して以来、もっぱら地元川崎に根付いた活動をしている。まちづくり協議会というどこにでもある会の委員を依頼され、地元の緑と水の保護、住みやすさ楽しさを実現しようとしている団体の支援などを行うと同時に、文化活動団体の支援を行うNPOの理事も頼まれ、各種の活動をし

ている。ともかく今は全くアカデミシャンらしさから離れた活動に結構な時間をさいている。自分自身もグリークラブ時代の楽しみを再びエンジョイしている。

### 文理9回卒 高木哲夫

一時体調を悪くした時期もありましたが、今は元気になりました。家庭菜園、ゴルフ、旅行を楽しんでいます。ぼけ防止にと時々読書も。

### 文理9回卒 松山朝夫

現在「南アルプス周回全山縦走」と名づけたものを実施中です。昨年は、出発点の静岡浅間神社賤機山から尾根を辿って竜爪、十枚、安倍峠。そこから静大山岳会の後輩の関君（工）祐島君（人文）などのサポートを得て、山伏、青蘆山まで行きました。来年以降はそこから北上し、白峰三山、鳳凰三山、甲斐駒、仙丈、鋸を経て南下し、塩見、荒川、赤石、聖光から南アルプス深南部に入り、静岡県の子ベツ春野町の京丸山まで縦走。そこから平地に下り東海道を歩いて出発点の浅間神社でゴールです。京丸山一浅間神社間を除けば断続的に歩いているルートなので、私としては大げさな縦走とは



## 文理S27同期会を焼津で開催

文理4経 芹沢欽一

ほぼ3年ごとに文理S27回同期会を、今年は10月6～7日に焼津の「ホテルアンピア松風閣」で開催した。

S27とは、昭和27年度に文理学部へ入学したの意味で、この当時の文理学部には人文学科と理科があり、理科には2年を修了して浜松の工学部や他大学の医学部・歯学部へ進むコースが設けられていた。また国立2期校だったこともあって、人文学科からも他大学へ編入転学する者も何人かいた。そこで卒業学部や大学とは関係なく、27年に入学した者全部の同期会となって続けてきたのである。

約140人に案内を出し、とりあえずの出欠の返事を受け取った段階では45人ほどの出席が見込まれ、幹事も意を強くしたのだったが、やはり寄る年波かその後体調を崩して出席できなくなった人も多く出て、結局34人（ゲストの田邊郁子さんを含め女性6人、工学部・他大学へ行った者6人を含む）の出席となった。それにしても前回からの3年間に亡くなった人が10余人もいたり、出席できなかった人の多くも健康上の理由であることを考えると、出席できるだけの健康であることに感謝しなくてはならない年齢となった。

さて、会は幹事の太高富士彦君の司会で、幹事代表のあいさつ、今やゲストというより仲間の一人といえる田邊郁子さんの祝辞、そして最も遠い広島県三原市から来た沖津諭一君の乾杯の音頭でなご

思っていないが、一筆書きのように連続して反時計回りに一周するのが多少珍しいかもしれません。後4年のはかかるでしょうが、百名山ブームの中、このような山行があっても良いのではと思っています。

### 文理9回卒 望月博

会社人生を十分堪能してリセットボタン。その後は面白そうなことは広く浅く首を突っ込んで元気に過ごしています。

### 文理9回卒 久保田エリ

今回の同期会に 長舟さんの奥様をお誘いしたところ、気持ちよく参加してくださり、本当に嬉しく思っています。長舟さんは同じ研究室の4人の仲間のお一人でした。早すぎる彼の死が本当に残念です。私事ですが、趣味と健康のためをかねて、地元の合唱団で歌っています。今年の12月、ウィーンの学楽友協会のクリスマスコンサートに、わが合唱団が出演することになり、今練習に大忙しです。また、数年前から地元の「区民参加オペラ」の合唱に参加して、作る側からもオペラを楽しんでいます。

やかに幕を開けた。

寮などの集まりで毎年のように会っている人もあれば、大岩以来初めてという顔もある。恒例の2分間スピーチの話題はいつものようにさまざまだったが、ボランティアで活躍している人が割合多かったのには感心した。何より司会者を困らせるような長演説がなく、聞く方もそれだけ神妙に聞いていたように思う。後はテーブルを行ったり来たりと、あちこちで懐古談や近況や病歴などの話に花が咲いた。こうした会では、話しているうちに何年ぶりか会ったことをいつの間にか忘れてしまうから不思議なものだ。

話は尽きないが、泊らないで帰る人もいたので、サドイシこと石川洋一君の音頭で、50余年前の感慨を込めて「若者よ」を高らかに歌い、一本締めでお開きとする。

二次会は、別にリザーブした女性全員を含めて集結し、隣室に迷惑ではと気になるほど賑やかな談笑が遅くまで続いた。

2日目は希望者18人で小型バスによる市内観光。まずは大岩の大学跡の留魂碑などを見て、田邊さんの解説を聞きながら、当時のたたずまいやその頃の若かった自分を想いしばし感傷に浸った。日本平から修復なった久能山東照宮を見学し、久能海岸を経て丸子の丁子屋でとろろ汁の昼食を堪能。途中で安倍川餅や山葵漬の老舗でお土産を買って静岡駅へ。駅前で尽きない名残を惜しみながら解散した。

# 平成20年度東海地区「魁寮の会」開催

文理12数 和田孝宣

毎年恒例の「魁寮の会」が、名古屋駅前前の居酒屋「たい信」で去る平成20年11月8日(土)に開催されました。

会は河合会長の挨拶、亀井氏による乾杯、水谷氏による会計報告、と続き出席者の近況報告で大いに盛り上がりました。

河合会長の篆刻による3年がかりでの「般若心経」の完成苦労話、市村大先輩からの「老老介護」から「認認介護」への身につまされる話。そして久しぶりに

出席された佐藤氏から「安曇野でのソバ打ち話etc.、話題は尽きず、夕方4時半から始まった会合が、終わったのは7時半でした。

そして、例年の春には、佐藤氏手作りの「ソバ会席」を食べに安曇野へ行こう!と皆で約し散会しました。

なお、この日は名古屋駅のツインタワーにイルミネーションの灯った日、皆さん目の保養をしながら帰宅しました。

(出席者)

亀井松涛(文理2法)	河合俊孝(文理2経)	内山賢治(文理2法)
大谷勝則(工進27)	間瀬 晃(文理5法)	水谷達仁(文理7経)
加藤秀臣(文理8法)	佐藤拓郎(文理10経)	大杉勝次(文理10地)
余川淋夫(文理11物)	和田孝宣(文理12数)	鈴木 徹(文理13法)
市村平一郎(旧制静岡高)		

# 田母神氏とミナイさん

人文1外史 山口 茂

数年前から、静岡県にはどんな姓(苗字)がどこに、どれくらいあるか調べている。結果はいつか報告するつもりである。

日本には多くの姓があり、一説には15万とも20万ともいわれる。たとえば、静岡県に多い池谷という姓はイケガヤ、イケタニ、イケヤと読む場合があるなど、正確なことは誰にもわからない。電話帳をもとに、多い順に3万の姓を記載した本『日本の苗字ベスト30000』によると、1位から10位までは順に、佐藤、鈴木、高橋、田中、渡辺、伊藤、山本、中村、小林、加藤である。なお30000位の件数は26である。

これらの姓は各地に一樣に分布しているものではなく、ばらつきが大きい。たとえば9位の小林姓は長野県に2万軒以上もあって、同県ではだんぜん1位(全国の県別順位で2位)であるが、鹿児島県では250位にも入らない。東京には約2万5千軒ほどあり第5位となっている。

全国1位の佐藤姓は静岡県にはそう多くなく、6位である。全国第2位の鈴木は静岡県に4万8千軒以上あり、2位の渡辺を大きく引きはなして第1位である。鈴木姓の全国2位は東京の4万2千、3位は愛知県で約4万1千である。これを反映して、わが同窓会の名簿を見ると、文理1回から人文35回までの卒業生約1万4千名のうち、鈴木姓は380人余で、2位の渡辺171の2倍以上となっている。

ところで、第二次世界大戦において、日本は侵略戦争などしていない、と主張して先ごろ航空幕僚長を解任された人の姓は田母神という。ききなれない姓である。どこの出身の人が気になって『現代日本人名録』2002年版にあたってみたが見当たらない。

日本では地名を苗字にする例が少ないので、もしやと思い、角川の『日本地名大辞典』の索引を見ていたら、“田母神”が一つだけ見つかった。場所は福島県の郡山市である。くわしい地図をみ

ると田母神小学校もある。もとは村だったことがわかる。電話帳の郡山版にも“田母神”姓が70数軒記載されており、前記『日本の苗字…』によると、全国に245軒あるという。元幕僚長田母神氏は郡山出身か、またはルーツが郡山にあると思われる。

いろいろ調べていると、めずらしい姓に出あうことがある。これはいずれも全国に(戸数が)そう多くないものである。たとえば静岡県に孕石(はらみいし)、飛奈(とびな)、胸組(むなぐみ)などがある。また鴨脚と書いて“いちちょう”と読む(形状が似ているから)とか、一尺八寸と書いて“かまつか”と読む(鎌の柄の長さが一尺八寸だから)などの判じものの姓もある。これらは説明を聞けば一なるほど一と思う。

しかし、あてられた漢字と読みが結びつかない例もかなりある。たとえば功刀・葉袋はともに山梨県にある姓(他県への転出もある)であるが、前者は“くぬぎ”、後者は“みない”と読む。苗字について書かれた本を読むと、由来についていろいろ説が書いてある。“みない”については、村人が葉袋の中味を「見ない」といったことに由り地名になったとか、また、ある人が姫をさがしに来て、村人にたずねたところ(そんな人は)「見ない」と答えたので絶望したその人が、持っていた貴重な葉袋を破ってしまったからという説などがあるから、どうやら葉袋と「見ない」とが関係しているらしい。確かなことは分からない。

葉袋は山梨県(現早川町)に古くからある地名で、旧村名でもある。わたしの持っている5万分の1地形図「身延」にも、地名に“ミナイ”とふりガナがふってある。

大は何十万とある姓から小は数軒しかない姓もあり、由来とかも様ざまであり、とおく離れた所に同じ姓があったり、姓(苗字)にまつわる話にはきりが無い。

そうだ。好天続きだったのでやむをえないか。この宇和町は低い山並に挟まれ帯状の地形でその間に田圃や畑があり村落がつながっている。どこにでもある田舎の風景だが、その中をひたすら歩く。交通量は田舎としては結構多く、通学生もひっきりなしにすれ違う。松山まで69キロの標識を見上げながら歩いていると冷たいものが顔に当り出した。傘をさす程ではないが近くの山が霧ですっかりおわれているので今日は一日雨になるようだ。道は次第に上り坂になり、8時半にはkm近い鳥坂隧道にさしかかる。

トンネルを抜けるとそこは一面霧の海で、10m先が見えない深い霧だ。昨日歯長峠で会った年輩の女性遍路と再会するが、何を思っか逆方向に戻っている。ここからはゆるやかな下り坂になっていて、やがて霧も晴れ、雨も止んで曇り空になった。炎天下よりかえって歩き易い。

森岡酒店のところで県道と別れ、住宅地を通る遍路道に入る。しばらく川沿の道を進むと大洲市の中心地に出た。街の中央を肱川が貫流してとてもきれいな澄明な水が流れている。やや上流では小学生が40~50人カヌー教室に興じていて、水上を水すまのように沢山のカヌーが動きまわっている。ホテル、Aコープ、ガソリンスタンド等が立ち並び商店街を数キロ歩くとようやく郊外に出てきた。

近くに十夜ヶ橋の札所がある。弘法大師がこの地を巡錫していた時夜になり、宿がなくてやむをえず寒中を橋の下で一夜を過ごしたという言い伝えのあるところで、道沿いに小さいお堂と納経所がある。立ち寄って納経する。有名な遍路ポイントになっているらしく、バスが立ち寄り大勢のお遍路がどやどや降りてきた。人家の途切れた国道は東に延びていて、途中でドライブイン道後があるので立ち寄って昼食にする。松山市までは49キロ、内子までは10キロの地点だ。400円の牛どんを頼んだら店長さんが生玉子を接待してくれた。いろいろな所で、様々な接待を受けるのだと改めて実感する。ここから、今夜お世話になる無料宿の宮田さん宅に電話予約をする。元気のよい女性の声で“承知しました、何時にお着きですか?、というので“あと10キロ程ですから3時には着けると思います、と伝えた。

ドライブインを出ると間もなく内子町に入った。立派に整備されたバイパスがぬけていて、沿道には真新しい町役場や警察署が建っている。歩道は洒落た敷石が使われていて、この一角だけが異空間になっている感じだ。かなりの大金を注ぎこんだのだろう。町民のためなのか役人の見栄か疑問に思う。こんな余計なことを考えながら国道を松山方面に進む。途中で内子橋を渡ることだけが頭の中にあり、その橋は国道にかかる橋だと信じこんで先へ先へと歩くのだが一向に内子

橋が現われない。

例によって不安の虫が胸の中で騒ぎ出す。道路工事の兄さんに聞くが内子橋を知らない。

近くの酒屋さんに入って訪ねると「随分通りすぎてきてますね、途中でロータリーがあったでしょう。あそこを右折、こちらからだ左折すると内子橋になります」とのこと。やれやれ、またやらかしてしまった。こう度々だと腹もたたないし、見知らぬ土地では仕方ないと思いつつながら2キロ程戻って内子橋を渡る。ここからは県道で山が両側から迫った谷間の道になった。無料宿は宮田さんの善意で宿を無料で提供してくれていて、部屋と寝具はあるが食事は自前だ。善根宿には食事まで出してくれるところがあるがここは宿のみ提供している。宿の少し手前の商店で明朝のパンと牛乳を買いビニール袋に入れて吊るしながら歩いていると、梨畑で作業していた主婦が突然後から追いかけてきて声をかける。何事かと振りかえると、もぎたての大きな梨を1個差し出して“どうぞ、と手渡ししてくれた。“すみません、ご馳走になります、ありがたいことだ。宿についてから早速いただいたが、水々しくてそれは大変おいしい味だった。無料宿には予定通り3時に着いた。宿は独立した1軒家で、天井の高い農機具小屋が物置き風の建物で、20坪位の広さであろうか、入って左側半分は資材等が山積されている。残り右半分はコンクリートのフロアで、窓際にそって半間巾の台が奥行き一杯についている。その上に畳が2枚並べてあり、隅には5~6枚布団が無雑作に積まれ、反対側には棚がおかれている。棚の横には机があり日誌が2冊置いてある。

開けてみると、今年に入ってからこの宿を利用した沢山の人達が思い思いの言の葉を書き綴っている。20才代の人、定年者、東京、大阪等各年令層各地から四国遍路に来ていることが判る。“一寸お粗末な宿だな、。部屋に入ったときふと思ったのだが、若者の一人が、“ずっとテントで野宿をくり返してきて四国に入って初めて屋根下で、しかも布団で寝れるなんて最高の幸せ!、の一文に接し、目から鱗とはこのこと、民宿でご馳走づくめの旅をしてきてすっかりぜい沢になっている自分を深く恥じ、反省した次第。全てに対して感謝の気持ちを忘れてはならない。夕方4時頃からは本降りになり、スレートの屋根を激しくたたく。早く着いてよかったと胸をなでおろす。

山合の里は早く暗くなる。それにこの雨だからまだ4時なのにうす暗い感じだ。今日は55,000歩近く歩いてきて疲れていたもので、横になって休んでいるといつか寝込んでしまった。目が醒めると既に6時、すっかり夜の帳がおりていて、部屋の中も外も真暗で、相変わらず激しい雨音がしている。

さて夕食にしよう。朝方まっちゃん旅館の女将さんが、出がけに“これお接待させていただきます、と丁寧にあいさつして折詰の弁当を渡してくれた。昼は牛丼にしたので夕食にととっておいた。折りの中にはノリ巻きおむすび3個と香のものがそえられている。1人ぼっちは淋しいが、山小屋や野宿を思え



# 「供養とスケッチの四国八十八ヶ所寺遍路旅」

文理9経 小林五郎

10月9日(火) 26日目。

まっちゃん旅館にお礼を述べて国道56

号線を一路北西に向う。朝から厚い雲がたれこめていて、いまにも雨が降り出し

ばいいし、それに蛍光灯もついている。ありがたさが身にしみて「ありがとうございませ。」と思わず合掌。ラジオもテレビもなく、うす暗い蛍光灯の下ではすることもなく早々7時には布団にもぐりこむ。干したこともない布団は湿気を含んでカビ臭いが、学生の頃の寮生活のあの万年布団に比べれば上等上等。多少なつかしさも感じながらねむりにつく。蛍光灯を消す。日頃も暗くしてねむるのだが、それにしてもこの暗闇はすごい。街中よりもより田舎にも最近では暗闇というものがない。必ずどこかに明りがあるからだ。この谷間には外灯もなく、しかもこの雨だ。子供の頃経験したあの暗さを久しぶりに体験した。夜中に夢をみた。この小屋ができて「こんなところで泊ったんだよ。」と誰かに話している。目が醒めたら、それは現実で、暗闇の部屋の中には、雨音だけが響いていた。

## 10月15日(月)

32日目に入った。6時半に宿を発ち一路東に進む。左手には大きなコンピナートがあり煙突が何本も空に突き出ているこの美しい海岸の風景にはそぐわないなあなんて思いつきながら歩いていると、100m先を歩く大きなリックの遍路姿が目にとびこんできた。懐かしい後姿はまぎれもなく鈴木さんだ。

今迄見えなかったのどこから湧いて出てきたのか。気づかれないように追いつくと、リックの後を掴んでグイッと引いてやる。「ヒュー！、と、とんきょうな悲鳴をあげて振り向いた瞬間「え！なんですか？小林さん！、と後は言葉が出ない。余程びっくりしたらしい。驚かせてごめなさい。

「うれしい！ 会いたかったんですよ」彼女は幼児のようにピョンピョンはね上り両手を振って再会した喜びを全身で爆発させた。私もここで会えるとは思ってもみなかったし、昨日会った川崎の女性からウワサを聞いてはいたが、まさかこんなに早く再会できるとは。

鈴木さんは、高知で別れてからの出来ごとを堰を切ったように話し出した。「あの自転車で遍路している爺さんがネ、私の携帯に電話してきて何て言ったと思います？ 結婚してくれだって、どう思いますか？」

「そんな爺はけつとばしてやれ！」と私。「あの爺さんが私の携帯を言いふらしているらしく、見知らない男性から、あのおじさんに連絡したいんだがどこにいるか教えてくれって、そんなの知ってるわけがないのにネ！」「私、小林さんからの電話を毎日待っていたのに、突然そんな電話がかかってきて、もう！」

「で、高知には幾日間いたの？」  
「3日間」  
「私だって毎日30~40キロ歩いてきたから、100キロ位の差がついていて、追いつけるはずないと思っていたのに、どうして？」

「途中、30キロ位ヒッチハイクしたけど後は全部歩きましたよ。小林さんは午後1時か2時には宿にチェックインしますが、私は夕方まで歩きますからネ」

1日に数キロから10キロくらいは余分に歩いているようだ。

私があまり表情を変えずに淡々と話をするので何を思ったか

「私、こんなに嬉しくて」と両手をバタバタさせながら「こんなにうれしいのに、ご迷惑？」

「とんでもない、僕だってとっても嬉し

いんだよ」

高知でさよならしてからもう再会はないだろうと思っていたから、消えかけた心の中に再び火がともったようで、喜び一杯の再会であった。彼女は昨夜あの遍照院の通夜室で泊っていたから同じ頃出発していたのだろう。それにしても5分差があると数百m離れるから、10分ずれていたらまず会うことはなかったのに。不思議な縁で結ばれているように思えてくる。

円明寺からは2日ばかりで40キロ歩き、ようやく第五十四番延命寺に着いた。寺のある大西町は、広島県因島市から大島等の島を結んで西瀬戸自動車道が延びてきている町で四国の西玄関口になっている。寺の境内には売店が数軒ありボタン飴や数珠などが売られていて、お茶の接待もしている。私はスケッチ、彼女はデジカメで忙しい。どこのお寺でもそうだが、まず入口で口をそそぎ手を清めてから鐘楼で鐘をつき、本堂、大師堂の順で読経する。私は納め札や納経帳を持っていないのでその手間ははぶけるがスケッチを2、3枚描くと全体でほぼ30分かかる。腰かけて休むのはせいぜい5分位で次に向って出発する。

住宅地をぬけた山裾に今治市の経営する共同墓地があり、その真中を通りぬけて南光坊に向う。墓は民間の共同墓地と違って、いたるところ夏草が生い茂り、墓石の前にも花等が供えられた形跡がなく、どこそこ見捨てられた墓地の感じがして淋しい。この墓地近くに6階建てのマンションがあるが、驚いたことにその屋上には立派な二層の天守閣がそびえている。

「マンションのオーナーの自宅じゃないの、随分派手なところに住んでいるね」  
「多分で先祖様がお殿様だったのかしら」

少し歩くと、市の中心地に20階建ての高層ビルがあり、ニューヨークの事件を思い出して「あのビルにジェット機が突込んだらどうなるだろうね」と云うと「そんな恐ろしいことを言わないで！」こんな会話をしながらやがて南光坊に着く。手前に別宮大山祇神社があり、隣りの高野山今治別院にサンドイッチされた形で並んでいる。南光坊は六十八番の神恵院と並んで寺の名がつかないお寺さんである。一般道を挟む形で本堂と大師堂が向い合って建っているが、門とか境内の境がなく、通りすがりに誰でも気楽に出入りできる庶民的なお寺だ。大師堂の前の木影にはベンチがあり老人がのんびり休んでいるのがよく似合っている。本堂前の休けい所で休んでいると寺の若い坊さんが現われ、お遍路についているな話しを聞かせてくれた。

別れ際にはペットボトルのお茶までお接待してくれていかにも南光坊らしく気易い坊さんで親しみを感じた。次の泰山寺へは、今治明德高校等のある新興住宅地をぬけて行く。昭和40年代のバブル期前までは恐らく一面田圃だったところで、それ以降に出来た新しい住宅地と思われる。どこの都市郊外にも見受けられる風景で、ところどころに開拓を免れた田や畑がわずかに残っている。この宅地が絶切れたところに泰山寺はあった。通りから本堂や大師堂がまる見えで木一本生えていない。入口にはお城を連想させる大きな石垣があるがこれも真新しく、しかも本堂と大師堂の間には立派な木造建物新築中だ。聞くとお坊さんの自宅だという。本堂よりも大きくて立派で

「これじゃご本尊様より自分が一番偉いと思っているんじゃないの！、なんて余分な詮索をしてしまう。すぐ横には真新しい鉄筋2階建ての納経所があり、2階は住いになっているみたいなのに。」

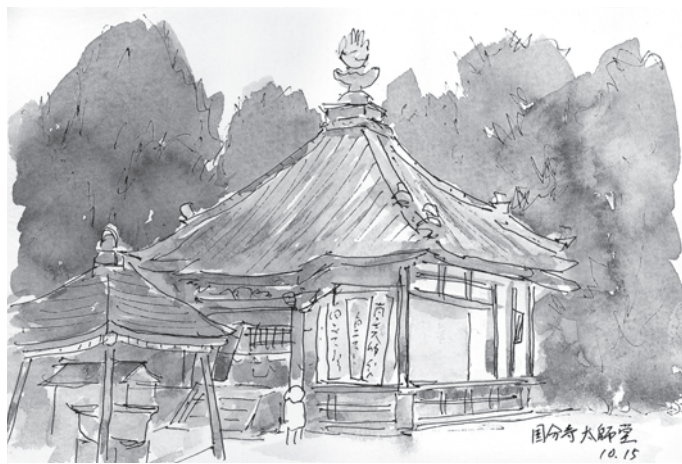
お寺には木影があり、林や森があって、人だけでなく小鳥や獣だって心安らげる場所であって欲しい。でも日当りは抜群で、鈴木さんがテントが夜露でぬれたままとまっているので干したいと云う。丁度庭先に大工さんのトラックが止っていたので、素早くそこに広げて干す。内張りまでしっとり濡れていてこれでは一寸使用できそうにない。強い日差しでたちまち乾いてしまう。

次の栄福寺までは3キロ。車一台がやっと通れる位の細い裏通りや田圃道をぬけ、急な坂道を上ると府頭山という小高い山の中腹に栄福寺はあった。泰山寺とは対比的に境内には樹木が茂り、落ちついた雰囲気がある。本堂は古く、大師堂入口上の梁の彫刻が素晴らしい。

仙遊寺は栄福寺から数キロ先にある作札山の山頂にある。山への登り口には犬塚池というかなり大きな池がある。昔麓に一匹の利口な黒犬がいた。栄福寺まで鐘が鳴ると山を駆け下り、仙遊寺で鳴るとかけ上っては寺の用務をしていた。ある日、両寺の鐘が同時に鳴ると犬は迷ってしまい、これではお寺の用は務まらないと池に身投げしてしまった。これを知った村人は犬を憐れみ湖畔に犬塚を設けて、その池を犬塚池と呼ぶようになったと伝えられている。この池を少し上ると車道から山道になるが、そこに休けい所があり、リックを置いて上ることにする。階段状の山道を上ると途中に弘法大師お加持水と伝えられる井戸があり、年中絶えることなく霊水が湧き出している。ペットボトルに一杯入れて当分の飲み水にする。近くの人が18ℓのポリタンクを持って汲みにきていた。「この水でお茶をわかつて飲むとおいしいんだ」と嬉しそうに運んでいった。

仙遊寺の本堂は昭和28年に建てられたもので新しいが、以前の形をそのまま修復しているので入母屋の形状が美しいし、とりわけ屋根瓦がいい。お城を思わせる屋根の曲線や破風の雰囲気は何ともいえない。

下り坂は山肌むき出しの道で、雨でえぐれて浅い窪地状の道が2キロ程つづいて、下り切ると農家が点在する里に出た。既に4時をまわっていたので、国分寺の通夜堂で食べる食事を途中のスーパで買い求める。久しぶりに再会したのでちょっぴり贅沢しようと思い、いつもより豪華な弁当や果物を沢山買った。約一時間で国分寺に着き、お参りしている間に夕焼空になってきた。スケッチしていると例によって近くから散歩に来ていた夫婦が近づいてきて、「私も最近絵手紙を習っているんですけど、こんなに上手にかけたらいいんですけど……、一枚いただけませんか？」と遠慮っぽく言う。「すみません、これは記録としてスケッチしているので一寸差しあげることではできませんが、途中で描いてお送りします」と約束し住所と氏名を教えてください、メモして別れた。この人には2



日後、雨降りしきる横峰寺の大師堂を描いて郵送し約束を果たした。

さて、お参りがすんで通夜堂に行く。既に3人の先客がいて夕食の最中だ。15畳位の土間と6畳のタタミ間があり、土間の方には卓球台のような台が2台あってベット代りにおかれている。若い男がこの台の上で、他の2人は和室にいて、若い女性は入口に背を向け、60才代の男は入口を向いて黙々と食べている。3人は別々の旅人なのかと思ったが、よく見ると若い男女は前日浄土寺の山門で托鉢していた2人である。「またお会いしましたね」と軽くあいさつしたが返事は返ってこない。空いていた台の上で弁当を広げていると年輩の男が食べ終わって一服のため外に出たので、どうせなら和室の方が落ちつくねと2人で移動して食事をはじめた時だった。外にいたはずの男が戻ってきて突然大声で怒り出したのだ。

「後から来たくせに、この部屋に泊まるなんて了見は一般常識にもとっていないか！ 何を考えているんだ。オレ達が先にここに入ったんだぞ！」いまにも跳びかからんばかりのものすごい剣幕で、これではヤクザも顔負けだ。

「いや、只食事しているだけで、ここで泊ろうなんて考えちゃいませんよ、どうぞ泊って下さい。私はシュラフがあるので土間でもどこでもいいんです」

四国遍路に来て、くだらないことで喧嘩したくないし、別段畳の上で寝たいとも思わない。お好きなようにどうぞ！ということだが、先刻納経所で「今夜2人で通夜堂をお借りします」と再確認の挨拶をしたところ「泊りはお2人だけです戸締りをしっかりしてお休み下さい」と言っていたのだ。通夜堂はお寺の施設で、当然事前にお寺の許しを得るのが常識なのだが、この3人は無断で使っている。非常識はどちらだなんてことを言って争い、仮に言い負かしても後味が悪くなるだけだ。それにしてもこんな人達がお遍路しているのかと思うとちょっぴり情けなくなる。後で話を聞いてもっと意外というか情けなくなったのは、この年輩者が10数回、若い2人も数回にわたり遍路をしているということだった。お遍路も何回かくり返すと、初回の感動が消え失せ、要領のいい、ずる賢い人間になってしまうのか、いやだねと2人で話し合った。ちなみに年輩の男と若い女は40才位年令の違う夫婦者だった！久しぶりに再会し楽しい夕食をとご馳走を買って来たのに文字通り通夜のような食事になってしまった。四国遍路で経験した唯一の暗くて悲しい思い出だ。

# 大学だより

## 可能性は無限大！

社会学科 4年 宮本将史

就職活動では数々の笑い話が生れます。私がある水産系商社に面接に行った時には、緊張からなのか、もともと郵便局員であった祖父を漁師である、と言ってしまいました。そのあと面接官に「おじいさんはどんな魚を取っているのですか？」と聞かれ、頭が真っ白になってしまいました。当然面接には落ちました。

私の就職活動は2007年10月から始め、2008年5月初旬に終了しました。本体験記では就職活動において自分なりに考えたことを二、三まとめてみたいと思います。

私は大学2年の時に東洋史学コースに在籍し、そのあと一年間休学をして中国に語学留学をしました。帰国後は転コースをし、現在は文化人類学コースに在籍しています。一年間の留学では外から日本を見ることができ、新たな視点を獲得できたと思っています。また、その留学で得られた語学や、新たな見方は就職活動中にも大変役に立ちました。

何も考えず、自分自身の声（興味関心）に耳を傾けず、なんとなく大学生生活を送っていたら、他の人との違いがはっきりしないのは当然です。それでは実際に就職活動をする時に困ってしまいます。そういう意味で就職活動とは、大学生生活の初めから始まっているのかもしれない。

私は就職活動の初めのころは、常に自分が何をしたいのか、そればかり考えていました。実際に面接のときにも、「御社に入社したら～～がしたいです！」とっていました。しかし、それでは不十分だと思

います。私には企業側の視点が欠けていたのです。大切なのは、この会社が今どのような状況にあり、何を必要としているのか知ることです。そして、その上で自分はこの会社のためにどのように貢献できるのか考えることが必要なのです。

会社の状況や要求を知るためには、ネットなどの情報だけでは不十分です。実際に現場（会社）に行き、直接聞いてみるのが一番です。実際に話を聞くことで、自分が勝手にイメージしていたものとは違っていたことはよくありました。

就職活動では初めから選択肢を狭めてはいけな思いました。選択肢が多ければ多いほどその人の可能性が広がっていきます。日本の企業がだめなら世界に羽ばたいてやる！というくらいの意気込みが必要で、そのように思っていれば数十社落ちようがモチベーションは落ちません。バイト先に就職先が見つからない栄養士希望の学生が居ます。私はその人に世界に展開している日系工場では日本人栄養士が不足していることを教えてあげました。彼は視野が広がったと喜んでくれました。

廊下に落ちていた紙くずにも裏紙としての使い道はあります。もしかしたらそこに書いた内容でノーベル賞を取れるかもしれません。ものは考えようです。選択肢も無限大、私たちの可能性も無限大です。就職活動において必要なのは、物事をいろいろな角度から見る視点と、選択肢の多さが重要です。

## 就職活動を終えて

経済学科 4年 棚橋圭太

4月6日、私は某都市銀行から内々定を頂きました。私は、4年生のはじめから1年間休学して中国の大学に留学しました。このことが就職活動に際して重要な意味を持ったと思います。後輩の皆さんにもぜひ海外の大学等で学ぶことをお奨めします。

ところで、私が就職活動を行った期間は半年足らずでしたが、それは本当に有意義なものでした。ここで後輩の皆さんに、これから行う就職活動が有意義なものになるよういくつかのアドバイスを、私の体験談も含めて述べていきたいと思います。

まず、就職活動を始めるにあたって早いうちから準備を始める事が大事だと思います。静岡大学の学生である私が言うのも何ですが、静大生は他の大学の学生と比べ就職活動を始めるのが遅いように思います。周りに大きな大学がなく他校の学生と知り合う機会があまりないため、比較対象が自分と同じ静大生しかいないといった事が原因かもしれません。もしくは静岡というのんびりとした風土のためかもしれません。いずれにせよ、12月頃から各企業の個別セミナーや説明会が始まり、同じ業界を目指す他校の学生と接する機会が多くなります。私自身もそうだったのですが、この時に初めて自分が出遅れている事に気づかされました。そのあと皆に追いつくべく必死に自己分析や筆記試験対策等をし、何とか本エントリーまでには周囲に追いつく事が出来ましたが、焦る事の無いように余裕をもってやっておく事が大切であると就職活動を終えた今になって思います。

次に、時間と体力を使って出来る限りいろいろな企業をまわるとい事もとても大事です。私はこの点に関して、恥ずかしながらあまり出来ていたとは言えません。上記の通り他の準備に追われていたため時間に余裕がなく、そして行きたい業界もほぼ固まっていたため、他業界まで見て回るといった事を怠ってしまいました。後に面接官の方からどういった業界をまわってきたのかと尋ねられ、上記の通り答えると、「就職活動は最初から一辺倒で行うのではなく、広い視野を持って色々な可能性を模索するのが大切なんだ。」とのご指摘を受けました。全くその通りであると思います。いろいろな業界をまわるとい事は各業界の特徴などを幅広く知る事でもあり、もしその企業の選考に進まないにしても、そこで学んだ事は後々必ず生きてきます。後になってあの企業も見っておけばよかったと思う事のないよう少しでも興味のある所は必ずまわっておく事が大事です。

最後に、私が就職活動期間中、一貫してきた事があります。それは就職活動を思いきりエンジョイするという事です。就職活動をしていると、あまりの忙しさに嫌気がさしてしまう事もあります。エントリーシートの結果や面接等の出来がおもわしくなく、落ち込む事もありました。しかし忙しさもいつまでも続くものではありませんし、ずっと落ち込んでいてもいい結果が出るわけではありません。それよりも、一生に一度しかないであろうこの貴重な機会を十分に楽しむ事が一番賢いやり方であると思います。

以上、えらそうな事を述べてきましたが、実はこれらのほとんどが私も先輩から聞いたものです。つまり毎年先輩方が就職活動を思い返してみても大切であると考えている事だということです。これから本格的に就職

活動が始まってくると思いますがこれらの事も参考にしつつ頑張ってください。皆さんが各々納得できる就職活動が送れる事を祈っています。

## 価値観革命

言語文化独文 3年 福山大介

大学を通して学んできた事柄の中で最も素晴らしいと思えることは何だろう。僕は去年の今頃、ドイツは西部ベートーヴェンの生まれ故郷であるボンという都市で生活していた。この町は人口30万人余りのドイツにおける大都市で、旧西ドイツにおいては首都であった。中心街すぐ横を流れるライン川が川沿いを散歩する人々や脇のベンチで歓談している人々と一緒に夕日で照らされると、この上なく美しいボンの日常生活が映し出される。この町で私は実に多くの非日常的なことを経験し、一回り大きくなって帰ってきた。今回はそこから抜粋して、皆さんにも共感してほしい事柄を紹介したいと思う。

僕が海外生活を通して主に学んだことは、自分の周辺至る所にひっそりと息を潜めて身を隠している「当たり前」という、僕たちが無意識に受け入れている事柄が存在しているということ。そして、その事柄に関してそれがなぜ当たり前なのか、また、それはそのまま受け入れ続けても良いことなのだろうかと問うことである。僕は去年の異文化圏での生活を通じて、自分にとっての当たり前が悉く否定され、まったく新しい物の見方が身につくという過程を繰り返し経験した。簡単に言うと、今まで日本文化の中で育ってきた僕の習慣や価値観が、非日本文化の中で育ってきた僕らの習慣や価値観が、よりよく知ることができたということ。同時に、自国文化と他国文化を比べて、より良かろうと思われるほうを選び取るこ

ができるようになり、人生の選択肢の幅が大きく広がったということだ。ドイツでは挨拶の際、男性同士なら握手をし、女性同士、または異性間であれば軽く抱擁する。映画ではよく見るシーンに過ぎないが、いざ自分がその場に居合わせると、その意味が理解できる。それが握手だとしても軽い抱擁だとしても、体が触れることでその人との心の距離が近く感じられる。ヨーロッパ風に時間厳守という言葉を一瞬忘れ、急ぐことをやめる。すると、今まで分刻みで自分を追い回していた時間が、急にゆっくりと流れ始める。いつもまるでディスカッションのようなドイツ人の会話。初めはドイツ語が分からず入っていけなかったが、後になってドイツ語が分かるようになって、やはり入っていけなかった。そこで、自分には言語能力以前に人に伝えたい確固たる考えそのものがないのだとわかった。学校教育において、疑問の追及などそっこのけで常に暗記に没頭してきた僕。その理論や背景を問うことなどしなかった。しかし、世の中のあらゆる事象について「なぜ」、あるいは「本当に真実なのか」と問うことそれ自身が実は勉強の核心であり、自分の考えを形成することの始まりであるのだ。物事を否定的に見る力、それぞれ思考を豊かにし、談話を深い領域まで導く。

以上、僕が海外生活で学んだことから幾つか抜粋して紹介した。今後も引き続き、国内外を問わず向上心を常に持ち成長し続けたい。

## 学生生活について『解なし』

法学科 3年生 青野 洋

就活という“現実”が大塚愛の歌声にのって、迫ってきた10月17日、不意に携帯電話の着信音が響いた。「“学生生活について”というテーマで、今までの経験から思うこともあるだろうから、『岳』の原稿を書いてくれないか？」と、私のゼミの教授からのメールだった。この時、私は平日にもかかわらず免許の書き換えのために長野の実家にいた。教授が下した、“不登校”気味の学生に原稿を依頼するという、ぶっ飛んだ判断に驚きつつ、せっかくのいい機会なので「僕で良ければ」と返信した。信頼して依頼してくれた教授のためにも、いつものノリを抑えつつ、少しは真面目に「学生生活について」考えてみようと思う。

さて、本題の「学生生活について」考えながら、パソコンに向かってみる。しかし、“学生生活について”というテーマをどう扱うかは、難しい問題である。なぜなら「私は自分の学生生活について〇〇と思う」と端的に表す言葉が今のところ見つからない。だから、今までの約2年と半期の学生生活を振り返って〇〇に当てはまる言葉を捜してみようと思う。

一般に大学時代はとても楽しいと言われている。そういえば、私の両親も戻れるなら大学時代に戻りたいと言っていたのを聞いたことがある。この文章を読んでいる人も考えてみてほしい、ほぼ全ての人は大学時代が楽しかった、もしくは楽しいと感じていると思う。この2年と半期を振り返ってみると、例に洩れず、私も大学生活を楽

しんできた。もちろん辛い事や苦しい事が無かったわけではなく、大学生になって今まで経験できなかった経験が格段に増えたのに比例するように、それも多かった。私の場合、その様々な経験が自らの大学生活をより楽しくさせてきたと思う。もし、大学生活の楽しさを関数で表すことができるのなら、学年に対し比例的に増加していくのではなく、指数関数的に増加していくのではないと思う。さらに底の値が大きいのか、もはや今年の楽しさの値がいくつになるのか、見当がつかない。とても子供っぽい表現しか思いつかないが、今までの大学生活を振り返ると「楽しすぎて、何と言ったらいいかわからない」としか言えないのが現状である。

ここで、もう一度〇〇に当てはまる端的な言葉について考えてみる。やはり、しっくりくる言葉はまったく見つからない。しかし、思うに、しっくりくる言葉が見つからないというのは、私の大学生活が未だ発展途上であるということの証明である。それは決して悪いこととは思わない。だからこそ、今はまだそれで良いのではないだろうか。学生生活について、私は、「まだよく分からない」。つまり、『解なし』が今の私の答えである。

いつか〇〇に当てはまる言葉を見つけたと思う。いや、むしろ、“望む言葉”が当てはまるように、あと1年と半期を一生懸命過ごしていきたい。

## 書籍紹介

### 『ヨーロッパ人間学の歴史—心身論の展開による研究』

金子晴勇 著 (知泉書館、2008年6月刊) 450頁、6,825円＋税

ヨーロッパの人間学はカントにより構想され、20世紀初めにマックス・シェラーによって組織的に構築されたが、その歩みは古代にまで遡る。

本書は古代ギリシアのホメロスから中世をへて近代哲学にいたる「心身論」の流れを、原典に即して思想的に考察する。ヨーロッパの心身論を、プラトンやデカルトに代表される「魂と身体」として捉える二分法と、オリゲネスにはじまる「霊・魂・身体」とする三分法から捉え、この二つの見方が相互に交錯しつつ展開してきた軌跡を明らかにする。とくに近代哲学において霊性がいかに変容していったかという閑却されがちな問題にも光をあてる。

著者は従来、「人間の尊厳と神の像」「愛」「自由意志」「両親」「恩恵」など多様な視点から人間的考察を試みてきた。本書は大学での講義を踏まえて書き下ろされ、著者の半世紀に及ぶ人間学研究の集大成であるとともに、心身論を中心としたヨーロッパ思想史ともなっている。

#### 【目次】

- 第I部 古代ヨーロッパの心身論
- 第1章 古代ギリシア人における魂と身体
- 第2章 ギリシア哲学の心身論
- 第3章 ヘブライズムの心身論
- 第4章 キリスト教教父哲学の心身論
- 第5章 アウグスティヌスの心身論

### 『会計利益と課税所得』

永田守男 著 (森山書店、2008年10月刊) 226頁、3,200円＋税

近年まで、「わが国では利益を上げている会社は税金を払っている」と理解されてきた。少なくとも一般にはそのように思われていることであろう。しかし、2000年前後からの会計基準の改正や新規導入を通じて、また一連の税制改正を通じて前記の理解は過去のものとなりつつある。日本の大手金融機関が空前の利益を計上しながらも税金を納めていないという新聞記事を記憶にとどめている方もおられるであろう。このような現象は米国では普通のことであったが、わが国でも今後は普通のことになるであろう。

本書は、会計利益を算定する財務会計と税額(課税所得)を算定する税務会計の関係を米国に求め考察している。米国では両会計は独立した制度でありながら、その関係性はつねに議論されてきた。その議論はときに一致の方向へと進むときもあれば、逆に拡大の方向へと進むときもある。その議論は理論の発展というよりむしろその時々々の社会状況に影響を受けた適切な距離感を探る議論であった。本書の前半部分(第1章～第5章)は税務会計における財務会計の浸透状況とその距離を探る議論を考察している。他方、財務会計では、税務会計とは異なり、両会計の距離に関する議論は直接的ではない。少なくとも、両会計の目的の相違を明らかにした最高裁判所判決以降、財務会計において両会計の一致を求める議論は後退

#### 第II部 中世における心身論の展開

- 第1章 スコトゥス・エリウゲナにおける人の地位
- 第2章 アンセルムスとベルナルの心身論
- 第3章 トマス・アクイナスとボナヴェントゥラの心身論
- 第4章 スコトゥスとオッカムの心身論
- 第5章 ドイツ神秘主義の心身論

#### 第III部 近代ヨーロッパの人間学と心身論

- 第1章 エラスムスとルターの人間的三分法
- 第2章 デカルト学派の心身論とその批判
- 第3章 敬虔主義における霊性
- 第4章 啓蒙主義の人間観
- 第5章 カントとヘルダーの人間学
- 第6章 近代哲学における霊性の復権

著者の金子晴勇(かねこ はるお)氏は昭和26年静岡大学文学部文科学科 哲学専攻卒業、昭和37年京都大学大学院文学研究科博士課程修了。現在聖学院大学大学院客員教授、岡山大学名誉教授、文学博士(京都大学)

している。それに代わって、距離感の議論は税効果会計として表出する。本書の後半部分(第6章～第8章)では、両会計の距離が広がれば広がるほど、財務会計の観点から両会計を繋ぐ税効果会計に制度上の補強が必要とされ、その距離に調整が図られる状況を考察している。

さらに、本書ではエンロン事件を契機とした会計不信に対する制度的な対応を素材として両会計の関係性を明らかにしている(第6章～第8章)。会計不信は財務会計だけでなく税務会計にも及んだ。両会計は独自の論理で対応しながらも一体となって制度的な補強が図られた。エンロン事件への対応が両会計の一体性を図らずも提示しているといえる。

両会計に普遍的な安定的な距離が存在しているわけではない。エンロン事件はこれまでの両会計の距離に変容をもたらした。多くの制度改正をもたらした。制度改正後の両会計の距離は確定したとはいえず、新たな距離感を探る動きはますます複雑な様相をみせている。

本書でとりあげた米国の様相が、そのままわが国でも生じるとはいえないだろう。しかし今後のわが国の会計制度の方向を探るうえで、米国の両会計の関係を理解いただくことは有用であろう。

### 『イギリスのコミュニティケアと介護者—介護者支援の国際的展開—』

三富紀敬 著 (ミネルヴァ書房、2008年11月) 432頁、6,500円＋税

『日本経済新聞』の連載記事「セミナー どのような日本の介護」(2008年10月20日朝刊)に、次のような記述がある。「欧州では介護者支援は重要課題で、多くの国で介護手当や家族の休養の支援策が実施されている。日本は・・・市町村独自の事業に限られている」。欧州で実施されていると紹介の介護者支援は、北欧諸国を含むだけではなくヨーロッパ以外のアメリカやオーストラリア、ニュージーランドでも広く見られる政策である。

本書は、W.ベヴァリジの『社会保険及び関連サービス』(1942年)と同『ボランティアアクション』(1948年)を読み解きながら、イギリスにおける介護者支援の歴史と現状について、地方自治体や民間非営利団体を対象にする幾つかの調査を踏まえて検討したものである。

日本における介護者への支援と言うとき念頭に置かれる制度は、仕事を持つ介護者のための休暇

に止まる。介護者の負担は、要介護者への支援をもってすれば十分に軽減されると評価することから、介護者を直接の対象にする支援制度は、介護休暇を除いて少なくとも国の制度として存在しない。こうした状況は、『日本経済新聞』も指摘するように、諸外国と異なるばかりでなく、経済協力開発機構(OECD)や国際連合(UN)、世界保健機構(WHO)あるいはヨーロッパ連合(EU)の90年代以降に示される基本的な見解とも異なる。

日本の政策動向や研究動向に照らすとき、介護者への支援の必要性と政策手段についての議論から始めなければならない。介護者の独自のニーズと介護者を直接の対象にする支援に関する議論が活発になることを願いながら、イギリスの政策経験についてささやかながら検討し、日本への政策上の示唆を得ようとしたところである。

### 『若き高杉一郎 改造社の時代』

太田哲男 著 (未來社、2008年6月30日発行) 296頁

#### 静大教授だった高杉一郎—『若き高杉一郎』を書いて

太田哲男



高杉一郎(1908-2008)は、『極光のかげに シベリア俘虜記』(岩波文庫)の著者としてつとに令名が高く、児童文学の世界では、フィリパ・ピアス『トムは真夜中の庭で』の訳者として著名である。また、『エロシェンコ著作集』(みすず書房)やアグネス・

スドレー『中国の歌ごえ』(ちくま文庫)の訳者としても広く知られていた。さらには、自らの経験を綴った『征きて還りし兵の記憶』(岩波現代文庫)も、大いに評判になった。

高杉一郎は、本名を小川五郎といい、シベリアから復員したあと、『極光のかげに』を出版(1950年)し、50年9月から72年3月まで、静岡大学の教官(英文学)であった。1960年代末から70年代初頭にかけての「大学紛争」時代に教養部長を務め、その後、和光大学人文学部教授に転じた。小川先生は、2008年1月9日逝去、享年99。

小川は、戦前には雑誌『改造』で名高い出版社だった改造社につとめ、雑誌『文藝』の編集にたずさわっていた。

私は、静大が大岩地区から大谷に移転しはじめた1967年に人文学部に入学し、71年3月に卒業した。今思えば残念なことに、在学当時の私

には、小川五郎先生との接触はなかった。

しかし、その後、あるきっかけで晩年の小川先生のお宅への訪問を重ねるようになり、その聞き書きを軸に、一冊の本をまとめた。『若き高杉一郎 改造社の時代』(未來社、2008年)がそれである。これは、表題にあるように、改造社の編集者としての小川五郎を描いたものである。

私はこの本で、日中戦争から太平洋戦争期にかけて、文芸雑誌を通じて時代状況を把握しつつ時流に抗そうとした小川五郎の仕事について描いた。同時に、郭沫若や郁達夫との接触から、中野重治や宮本百合子などの文学者との交流、三木清などの思想家たち、渡辺一夫や中野好夫、福原麟太郎といった学者たちとの交わりなど、編集者としての小川のもっていた多彩なネットワークを描いた。

小川がシベリアに抑留されていた時代については、『極光のかげに』に描かれている。小川が戦後に行なった数々の仕事に関しては、私の本では簡略な言及にとどめざるを得なかったけれども、彼の戦後の仕事には自らくぐった戦争体験・抑留体験が生かされていたと見るができることを、私は論じた。

幸い、この本については、「朝日新聞」(9月14日付)書評欄では「時代に抵抗した雑誌編集者の足跡」、「静岡新聞」(8月17日付)書評欄では「流転する時代への姿勢」という表題で取りあげていただいた。

(桜美林大学教授。静岡大学人文学部1971年卒)

## 個人情報保護

会員の大切な個人情報は、当同窓会の活動以外には一切使用致しません。第三者に開示・漏洩することは一切ありませんのでご安心ください。

尚、会員データベースからご自分の個人情報データの削除をご希望される方は、下記の『変更データ個人票』にて事務局までお申し出ください。

※本部あてに住所変更していただきますと所属支部も自動的に変更となります。

### 会員の皆様へお願い

次の場合には必ず、「変更データ個人票」を同窓会事務局までお送りください。

- ・転勤、引越等により、住所が変わったとき。
- ・自宅の電話番号が変わったとき。
- ・結婚等により、姓が変わったとき。
- ・勤務する会社等が変わったとき。
- ・その他会員名簿の記載事項に変更が生じたとき。

#### 住所等の変更は、速やかにこの用紙に記入の上事務局へお送りください。

静岡大学文理・人文学部同窓会		全部で _____ 件	* データ作成者名	
<b>変更データ個人票</b>		No. _____	電 話 ( ) -	
変更データ入手日 年 月 日		本部受取日 年 月 日		データ更新日 年 月 日
個人コード番号			連絡事項	
* 文理・人文学部		回 昭和・平成	年卒業 専攻	
ふりがな * 氏 名		ふりがな 新 氏 名		
* 名簿の 氏名 住所 電話 勤め先 支部 の変更(該当するところへ○を付ける)				
新住所	〒			新勤め先 会 社 名
新電話	( ) -			電 話 ( ) -
メー ル				

\*は必ず記入のこと。  
訂正検索の利便のため、卒業回、卒業年、専攻学科を必ず記入してください。

〈事務局への連絡〉月曜日から金曜日の10:00~16:00にご連絡ください。  
(休日、時間外はFAXにてご連絡くだされば、後で対応いたします) 担当: 土屋